

いのちのささやきが聞こえる…

# 木彫 仁吉 -10年の軌跡展-

Trajectory of ten years



---

ごあいさつ

---

「木魂（こだま）」～木に宿りしものたち。

ひとつの木の素材を手で彫り上げ、具象化することで作品へと変化させる彫塑。

作家の息吹により木彫に新たな生命（いのち）が生まれます。

木彫は生きたアートです。

新しい木彫表現を探求し、たどり着いた擬人化した動物たちの作品は、

いつも観る人の心を幸せにしてくれます。

感性豊かな写実力と少し官能的なフォルム……。

彫刻の枠を超えた深い精神性のある造形が特徴的な

大小さまざまな動物たちの作品は温もりがあって魅力的です。

北海道産の木材にこだわり、海風を感じる小樽の地で心と技が一体となって、

作家のあたたかな眼差しによって、

制作された愛らしい動物たちのぬくもりあふれる木彫作品の数々。

心とところが支えあう思いやりと、精神の豊かさを感じる生き物たちの声と、

奥ゆかしくもユーモアに富んだ木彫世界を構築する“仁吉”こと

吉田昭彦先生の想いをぜひ感じてください。

2020年7月

札幌三越

ごあいさつ

---

この度、札幌三越におきまして

「いのちのささやきが聞こえる・・・ 木彫 仁吉-10年の軌跡展-」を

開催する事となりました。今回の展示は、この一年の新作で構成してみました。

それぞれの動物達に日々の想いを重ねて、いわば作者の近況の心の日記とも言えます。

生まれて来た作品達のほとんどは、初展示のものばかりです。

どうか一点一点の物語を楽しんで味わってみてください。

2020年7月

仁 吉

作家略歴

---

木彫作家 小樽市在住 千葉県柏市出身

芸大を目指して浪人中に、北海道知床で木彫に出会う。

以後、独学で木彫を追求し、現在に至る。

1978年 礼文島 澄海岬にて「アトリエにきち」をオープン。

1984年 大阪心斎橋にて初めての個展。

2002年 礼文島プチホテルコリンシアン

〈にきち常設ギャラリー〉をオープン。

現在は小樽を制作拠点とし、

札幌、東京で個展を中心に活動をしている。





「四つ葉のクローバー」 巾27.0×奥行18.0×高さ40.0cm

..... もういつだったか 忘れてしまった  
..... 四つ葉のクローバーが一面に広がる  
..... 丘に出会ったことがある  
..... 今となっては  
..... その場所がどこにあったのかも  
..... 覚えていない  
..... ただあの頃は  
..... 幸せは不意に巡って  
..... 来るものだとそう思っていた



「カナリアの歌」 巾20.0×奥行13.5×高さ39.5cm

： いつからだろうもう鳴かなくなった カナリア  
： ただ壁に飾られた山々の絵を見ているだけ  
： 以前はあんなに美しく鳴いていたのに  
： 繰り返される日常 流れてゆく時間に  
： 僕も君の歌が聞こえなくなってもう鳴かなくなった カナリア  
： ある日僕は思い切って部屋の窓を開けた  
： すると無限とも思える真っ青な空に カナリアは飛び去って行った  
： 遠いあの森でもう一度 歌ってほしい  
： また あの頃のように





「赤い装い」 巾15.0×奥行9.0×高さ30.0cm

大作などを彫り続けると  
その間にこの様な小さな作品を試みる  
ただ彫る作業  
素朴でとても気持ちが良い。



「春のさえずり」 巾13.5×奥行16.0×高さ33.0cm

私  
の  
こ  
こ  
ろ  
に  
闇  
が  
広  
が  
ら  
ぬ  
よ  
う  
い  
つ  
ま  
で  
も  
そ  
こ  
で  
鳴  
い  
て  
い  
て  
お  
く  
れ  
そ  
の  
天  
の  
美  
し  
い  
さ  
え  
ず  
り  
を  
い  
つ  
ま  
で  
も  
い  
つ  
ま  
で  
も



「あなたとゆく道」 巾46.0×奥行15.0×高さ32.5cm

二頭のシロクマだと物語も  
よりイメージが具現化する  
まさに説明の要らない作品に仕上がった。





「夢のまた夢」 巾10.0×奥行17.0×高さ37.0cm

バクといえは夢  
我々の夢と重ねて夢のまた夢  
彫る事もまた夢であります。



「ジローの黄昏空」 巾22.0×奥行19.0×高さ33.0cm

中年男性が佇んでいる  
柴犬の頭はちょっと職人系にも見える

私だけだろうか。



「高嶺の花」 巾32.5×奥行17.5×高さ61.0cm

キツネも私の作品によく登場する  
厳しい自然の中で生きて尊厳を感じる  
大切に扱いたい。



「たった一つの願い事」 巾18.5×奥行16.5×高さ69.5cm

このキリンはまだ子供だ  
純真な願いを真っ直ぐに 天までも届くように  
私の想いでもある。



「きっといつか翔べると信じていた」 巾24.5×奥行14.5×高さ58.0cm

： ずっと空を飛べたいと思っていた  
： 木々の隙間を飛び抜ける小鳥たち  
： 青空高く整然と行く渡り鳥  
： 太古の昔 彼らとて  
： 初めはただ空を見上げて  
： 思いを馳せていたに違いない  
： ずっと空を飛べたいと思い続けてきた  
： いつか私の想いは  
： この翼に結実すると信じていた  
： ずっと空を飛べたいと思っていた





「お母さんのおにぎりが食べたい」 巾17.0×奥行12.0×高さ26.0cm

この作品の素材はセンノキ  
木肌が荒く美しい  
シロクマにとっても似合う素材だ。





「小さな灯しび」 巾37.5×奥行19.5×高さ34.0cm

このウサギの作品 耳がテーマ  
長くどこまでも長く  
私達の願いを込めて。



「寄りそって」 巾19.0×奥行11.0×高さ38.0cm

背中でもたれあっているシロクマ  
ちょうど現代社会で生きる私達によく似ている。



「赤いリンゴ」 巾21.0×奥行11.0×高さ35.0cm

この動物が立つポーズ 何度となく登場する  
私の動物の擬人化の原型ともいえる。



「そうだおうちへ帰ろう」 巾22.0×奥行17.5×高さ39.0cm

10年程前 私は柴犬と共に暮らしていた  
この作品を作る作業はその記憶を辿る作業であった。



「この胸の想い 高く高く 天までも」 巾40.0×奥行25.0×高さ93.0cm

… どうせ願うなら よきものを  
… どうせ生きるなら 良き生き方を  
… どうせ思うなら あつき想いを  
… この胸の想い 高く高く 天までも



「灰色の願い」 巾18.0×奥行15.5×高さ31.5cm

ネズミのイメージに少し迷ったが  
初めて「願いの作品」を試みたネズミは  
快く受け入れてくれた。





「北の峠を越えて」 巾20.5×奥行15.0×高さ32.5cm

氷原で厳しく生きるシロクマ  
都会の街中で孤独に生きている人  
それぞれがまた背負う荷がある。



「雨上がりの公園」 巾19.5×奥行18.5×高さ35.0cm

このブランコの表現がびたっと出来た時  
すでに作品も仕上がっていた。



「小さな命」 巾20.0×奥行18.5×高さ41.0cm

親子の作品は無数に存在する  
この作品は特に親の心情に力を注いだ  
育て守る親の心に。



「あなたと生きる喜び」 巾23.0×奥行21.0×高さ48.0cm

あなたと生きる喜びという言葉は それぞれの人に違う意味を想起する  
長く二人で生きている人 かつては二人で生きた人 ずっとひとりで生きてる人  
それぞれが想いを馳せて切なく何かあたたかいものを感じ取って頂ければ。



「わたしのひと」 巾18.0×奥行18.0×高さ46.5cm

： あなたは目に見えるものを求める  
： けれどわたしは  
： あなたから多くの  
： 目に見えないものを  
： 有り余るほど頂いた  
： それは時が移っても  
： 消えはしないわたしの宝物  
： あなたは気づいていない  
： あなたの内にある宝物





「何かいい匂いがする」 巾24.0×奥行14.0×高さ28.5cm

作品の外側に向け 匂いというイメージを膨らませる  
観る者は作品の外の世界を想像して自らイメージを立ち上げる  
私はその作業がとても好きだ。





「ここ掘れワンワン」 巾23.0×奥行14.0×高さ38.0cm

この作品の台座は  
黒く光り都会のアスファルトを象徴している  
大地を掘る事を忘れた犬達に思いを馳せて。



「夢は野山を駆け巡る」 巾32.0×奥行17.0×高さ12.0cm

この作品は立体作品とはまた違い  
絵画を描く様に仕上げた。



「野を駆け抜けろ」 巾29.0×奥行14.0×高さ33.5cm

アトリエの片隅に残された三角形の木片  
いつか時が熟せば作品に生まれ変わる  
我々の人生にどこか似ている。



「一足の願い」 巾21.0×奥行13.0×高さ49.0cm

とてもシンプルな作品  
唯一片足を後ろに蹴り上げている  
素材はやはりセンノキだ。



「懐かしい草原の日記」 巾23.5×奥行26.0×高さ79.0cm

： あなたは私の頭の上で  
： アカシアの葉を食べている  
： 小さな私は枝に届くのが精一杯  
： 大きな顔が私を見下ろして微笑んでいる  
： ふとキリマンジェロの風が枝を揺らして  
： 葉がチラリチラリと私の顔へ  
： 真っ青な空の中あなたはまた笑った  
： そして私達は何度も笑った  
： 懐かしい草原の記憶…



「一輪の愛の花」 巾17.0×奥行15.5×高さ32.0cm

… 今日私は  
… 悲しむことはない  
… この花のよう  
… ただ紅く  
… 何ものにも染まらず  
… あなたの前で  
… 微笑んでいよう





「夢の花園」 巾20.0×奥行15.5×高さ11.0cm

どの生き物も無防備に寝ている姿は愛しいものだ  
その想いを一気に作品に込めれば完成だ。



mitsukoshi  
MITSUKOSHI